

2013 年度（対象年度：2012）自己点検・評価シート【大学全体の視点】

基準 10 内部質保証

・自己点検・評価

1. 点検・評価項目等に基づく状況確認 《評定形式》

自己評価欄に「A：適切に実行している」「B：概ね実行している」「C：あまり実行していない」「D：実行していない」の4段階で記入してください。

項目 No.	評価項目	点検項目	自己評価	
			個別	総合
1001	大学の諸活動について点検・評価を行い、その結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしていますか。	年度ごとに自己点検・評価を行い、その結果を社会に公表していますか。【どのように】	B	B
1002	内部質保証に関するシステムを整備していますか。	自己点検・評価を改革・改善に繋げるシステムを整備していますか。【どのように】	B	C
		独自の外部評価を実施し、学外者の評価を自己点検・評価に取り入れていますか。	D	
1003	内部質保証システムを適切に機能させていますか。	自己点検・評価データベースは有効に活用されていますか。【どのように】	C	B
		教員活動自己点検システムは有効に活用されていますか。【どのように】	B	
		文部科学省および認証評価機関等からの指摘事項について適切な改善を行っていますか。【どのように】	A	
		自己点検・評価の実施により各組織の改善が進んでいますか。【どのように】	B	
		評価を改善に繋げる主体的な評価文化の醸成を図っていますか。	B	

2. 現状説明 《記述形式》

対象年度における取り組みを、点検・評価項目の観点から、改善状況を含め総括してわかりやすく説明してください。点検項目欄【どのように】と記載のある項目は、取り組み内容を具体的に、記述してください。

自己点検・評価の社会への結果公表については、点検・評価報告書（認証評価申請時）の公表をもって行っている。2011 年度から開始した自己点検・評価制度では、評価結果の学内公表に留まっており、学外公表については検討課題であった。この点に関して、2012 年度第 7 回全学大学評価会議<2013 年 2 月 28 日開催>において「大学評価に係る公表の方針」を策定し、公表の基本姿勢、範囲、方法を定めた。これに基づき、2013 年度に本学 HP を変更し、2011 年度、2012 年度の全学的な課題の一覧について、公表を行った。

内部質保証システムの整備については、自己点検・評価制度の導入や自己点検・評価委員会の設置、教員活動自己点検の導入により、評価を改善に繋げる仕組み、全学的な課題を抽出し改善に取り組む仕組みを整備することができた。全体として、各組織の自己点検・評価への認識は少しずつ高まっていると思われるが、同時に、毎年度の自己点検・評価活動は、評価疲れや形骸化が危惧される。

外部評価は継続的課題であるが、2012 年度は検討を開始するまでには至らなかった。2013 年度に検討を開始する。

自己点検・評価データベースは、自己点検・評価シート及び根拠資料を 2 カ年分格納したが、データ活用には至らず、2013 年度から運用を開始している。2012 年度事業として導入することとしていた、教員活動自己点検システムは、Web シラバスや研究者 DB とリンクさせた利便性の高いシステムとして、2012 年度期末入力からシステムを稼働して、各教員や教務課の負担軽減、効率化を図った。

認証評価機関からの改善指摘については、2006年度の大学認証評価において大学基準協会から助言を受けた組織はこれまで計画的に改善に取り組み、2010年度に同協会に改善報告書（中間報告書）を提出している。また、2009年度法科大学院認証評価、2010年度短期大学部認証評価の指摘事項についても、同様に改善に取り組んでいる。

自己点検・評価の実質化については、点検・評価を行うボリュームや質、評価項目の適切性など、制度の継続性を見据えた本学独自の評価システム構築が検討課題であった。2012年度においては、実施スケジュールを前倒しし、評価・改善のタイムラグを少なくした。また、2012年度第7回全学大学評価会議（2013年2月28日開催）において、2013年度から自己点検・評価シートを改訂し、評価の負担軽減を図るとともに、より大きな視点で本学の実態にあわせた点検・評価を行えるようにした。また、2012年度は認証評価受審に向けた点検・評価報告書作成過程において、各組織における意識の醸成も図られたと考えている。

〔改善すべき点の確認〕前回の点検・評価で、自ら「改善すべき点」と掲げた事項や、評価結果で「改善すべき点（【改善勧告】【努力課題】【留意点】）」とされた事項があれば、この欄に箇条書きで記載してください。

- ・評価・改善のタイムラグを防ぐための実施スケジュールの見直し
- ・自己点検・評価シートの記入の及び評価の効率化
- ・各機関（組織）における改善執行のシステムの構築
- ・自己点検・評価データベースの運用
- ・学外公表の検討
- ・外部評価の必要性の検討

3. 効果が上がっている点とその伸長方策 《箇条書き》

現状説明を踏まえ、効果が上がっている事項（特色ある取り組みや成果創出など）とその伸長方策を記述してください。

- ・制度の継続性を見据えた本学独自の評価システムを構築するため、シート様式を改訂し、シート枚数は約 2/5 となった。これにより評価の負担軽減を図るとともに、より大きな視点で本学の実態にあわせた点検・評価を行えるようにした。シート改訂の目的に沿った効果が現れているか、2013年度の評価活動について検証し、必要に応じて改善を加える。

4. 改善すべき点とその改善方策 《箇条書き》

現状説明を踏まえ、改善すべき事項とその改善方策を記述してください。

- ・大学評価に関する規程・細則について、規程と実態に齟齬があるため、2013年度中に実態にあった改正を行う。
- ・外部評価の導入が継続的課題であるが、2012年度は検討を開始するまでには至らなかった。2013年度に検討を開始する。

5. 根拠資料 《リスト形式》

項目 No.	根拠資料の名称
1001	大学評価に係る公表の方針
1002	2012年度 各組織における自己点検・評価に関する総評（全組織対象）-最終-
1002	2012年度自己点検・評価 評価結果(原案)に係る各組織との説明・意見交換の実施結果について

・評価結果

総評

昨年度の指摘を踏まえ、自己点検・評価シートの訂正が行われるなど、改善努力がうかがえる。また、公表に関する方針を定め、これに基づきホームページで公表がなされていることは評価できる。

ただし、自己点検・評価データベースの活用がなされておらず、改善が望まれる。また、「自己点検・評価活動は、評価疲れや形骸化が危惧される」とある。外部評価の実施の有無も含め、実のある制度改善に向けた努力が求められる。教育活動自己点検システムの活用の有効性については触れられておらず、その問題に言及することができない。改善すべき点の箇所では、「規程と実態に齟齬がある」旨の記述があるが、現状説明には記述がない。

伸長すべき点(長所) (箇条書き)
・評価シートの訂正がなされ、改善努力がなされている。 ・公表に関する方針を定め、これに基づき実施されている。
改善すべき点 (箇条書き) * 各項に[改善勧告][努力課題]又は[留意点]を記載
・教員個人の自己点検・評価として調査されているデータを、組織的に活用するにあたって留意すべき点は何か、どのように活用できるか、検討を開始し、具体化に取り組まれない。【留意点】 ・評価疲れや形骸化しないよう、実のある制度改善に向けた努力が求められる。【留意点】 ・教員活動自己点検システムの活用の有効性については触れられておらず、現状説明において記述されたい。【留意点】 ・規程と実態に齟齬がある旨、現状説明において記述されたい。【留意点】
[改善勧告][努力課題]は、改善計画書の提出が必要